

よる侵蝕量よりも大なる結果を示している。

なお、霜柱の長さは褐色火山灰に出るものが、黒色のそれよりも一般に長い、その霜柱の頭上に担ぎ出される浮き土の長さは逆に黒色の方が大きい。

5. 霜柱侵蝕に対する対策

道路の切取及び盛土面、或いは崩壊地の裸地において霜柱によつてできた土砂が、自重、風、地表流下水によつて下方に落下移動する量は前記の如く莫大なも

のであるが、この侵蝕土砂に対する防止法は、前に侵蝕形状について述べた如く、霜柱によつて侵蝕せらるる裸面の上部の草生地においては勾配急というより、寧ろ逆に下向きになつている如き場所でもよく繊細なる草根で結合せられ、侵蝕を免れおるのみをも判るように、一般に考えられる普通の砂防工事の如き固定的な施工に及ばずとも、裸地の危険な箇所を雑草類を播種または植付により、早急に草生地とすることによつて充分その効果をあげ得らるるものと認めた。

57. シイタケ子実体の形態*

林試 宮崎分場 温水 竹則・安藤 正武

シイタケの発生量および発生時期**に引続きその形態についてしらべた結果を報告する。実験資料は前報告と同じものから得た。測定した部分は第1図に示す通り傘の半径、傘の肉厚、褶巾、茎の長さ、茎の直径の5つの部分である。ただし不整形のもの、ドンコ、木干しの個体は測定から除いた(第1図)。

実験結果

I. 同一発生時期、同一系統内個体の変位

同一時期に発生した同一系統内の個体でもその形はさまざまであるが、実験の結果大きさ別の頻度分布はいずれの部分も平均値のまわりにはほぼ正規分布に近い分布をしていることがわかつた(第2図)。

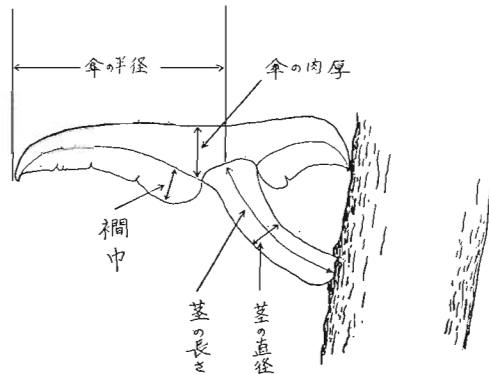
II. 発生時期による形態の変化

同一系統内発生時期別平均値の分布をしらべた結果、可成りのバラツキが認められた。しかしこのバラツキと発生時期の相互関係については一定の傾向は認められなかつた(第3図)。

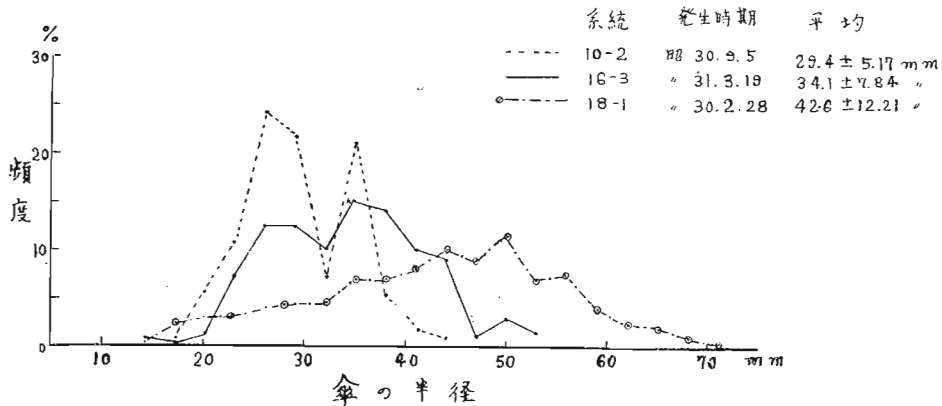
III. 系統間形態の比較

発生量の場合と同様に発生時期による変動を除くため5ヶ年の総生個体をもつて系統間の比較を行つた。この場合一般に傘の半径が大きくなれば、他の部分の大きさは傘の半径と対応させて考察した。実験の結果

第1図 シイタケ子実体の断面図



第2図 系統内の同一発生時期における個体の大きさ別頻度分布



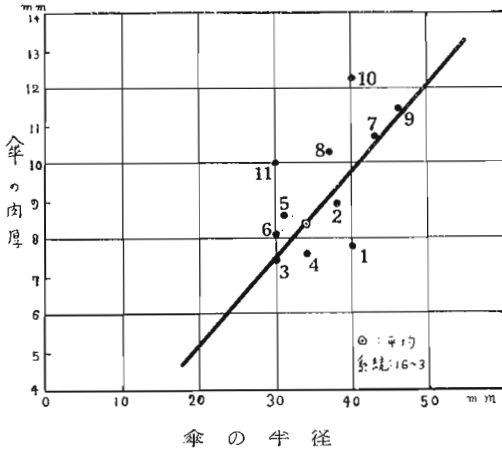
傘の半径、傘の肉厚、褶巾、茎の長さ、茎の直径いずれも系統により相当の差異があつたが、

- (1) 傘の半径が大きくなるにしたがつて他の部分も大きくなる傾向があること。
- (2) 傘の半径に比べて比較的肉厚の異なる系統と小なる系統のあること。

などが明らかとなつた。また褶巾その他の部分についても同様であつた(第4図)。

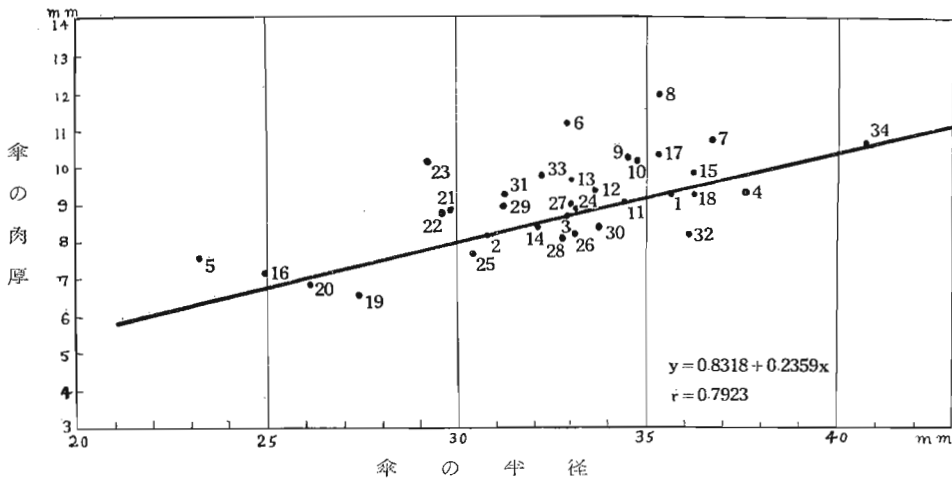
* シイタケに関する研究 第7報
 ** 日本林学会九州支部大会講演集 第11号 1958

第3図 系統内個体の発生時期別平均値 (傘の半径: 傘の肉厚)



No.	発生年月日	重み
1	昭 29. 3. 5	12
2	" 29. 4. 7	16
3	" 30. 2. 28	174
4	" 31. 3. 19	191
5	" 32. 2. 7	74
6	" 32. 4. 11	10
7	" 30. 10. 26	21
8	" 30. 11. 1	47
9	" 31. 10. 3	25
10	" 32. 10. 22	13
11	" 32. 10. 28	8

第4図 系統間の形態比較 (傘の半径: 傘の肉厚, 5ヶ年総平均)



No.	系統	No.	系統	No.	系統	No.	系統
1	1~1	11	6~6	21	11~1	31	16~4
2	2~1	12	7~1	22	12~1	32	16~5
3	3~1	13	7~2	23	12~2	33	17~1
4	4~1	14	7~4	24	13~1	34	18~1
5	5~1	15	7~5	25	14~1		
6	6~1	16	7~7	26	14~2		
7	6~2	17	8~1	27	15~1		
8	6~3	18	8~2	28	16~1		
9	6~4	19	10~1	29	16~2		
10	6~5	20	10~2	30	16~3		